

AI・ロボット社会到来による真のグローバル競争時代に備えて～希望ある雇用の未来を勝ち取るために～

■ AI・ロボットと雇用の捉え方

AI・ロボットについて正しく整理することが出発点

✓ AI・ロボットを雇用に対する脅威と飛躍して捉えるのではなく、AI・ロボットが生み出すビジネス環境の大きな変化に対して健全な危機意識を持つ必要がある

飛躍した意見	<ul style="list-style-type: none"> AIがAIを生み出し人間を超える（シンギュラリティの到来） AI・ロボットにより大多数の職業が失われる AI・ロボットを擬人化して捉える風潮
現時点における整理	<ul style="list-style-type: none"> 人間による目的設定のもと、特定の分野では人間を超える能力を発揮 職業が代替されるのではなくタスクが置き換わる AI・ロボットはBPRの有効なツールでありビジネスの幅が拡大 人間+AI・ロボットの組み合わせで雇用環境に大きな変化が生じる 予想を超える技術革新が起きる可能性がある

■ AI・ロボットが引き起こす本当のインパクト

企業規模・産業を超えたビジネスの進化

- ✓ 誰でも少人数で世界を相手にビジネスが可能（大企業である必要がない）
- ✓ 産業構造の激変、産業の垣根を越えた業務の融合・集約・効率化が加速

真のグローバル競争時代の到来

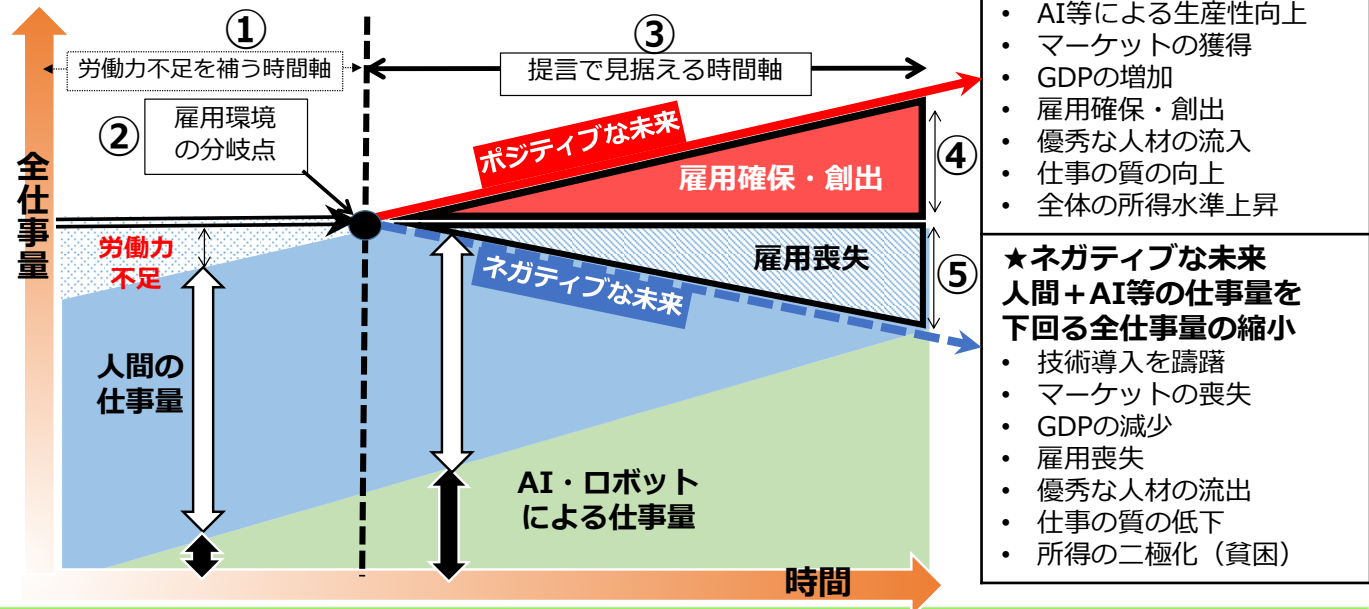
- ✓ 国内市場を守ってきた壁（国境、言葉）が崩壊
- ✓ 国内・国外マーケットという概念の喪失

☆ AI・ロボットに雇用を奪われるのではない
 ★ AI・ロボットにより生産性を高めた企業との競争に敗北することで雇用が喪失
 ★ 企業自体の存続の危機

■ 目前に迫る雇用環境の分岐点

目指すはポジティブな未来

- ✓ 雇用環境の分岐点が目前に迫っていることを強く認識し、企業・産業ごとにビジネス環境の変化の時間軸を見極めることが重要
- 労働力不足をAI・ロボットが補うことで事業（雇用）が維持（①）
- 人間+AI・ロボットの仕事量と全仕事量が一致する雇用環境の分岐点に到達（②）
- ポジティブな未来とネガティブな未来に大きく分岐（③）
- ポジティブな未来では、グローバル市場の獲得により全仕事量が増加、AI・ロボットによる仕事量を上回り、雇用確保・創出につながる（④）
- ネガティブな未来では、人間の仕事量を確保できない危機的な雇用環境に陥る虞（⑤）



☆ **ポジティブな未来**
人間+AI等の仕事量を上回る全仕事量の拡大

- AI等による生産性向上
- マーケットの獲得
- GDPの増加
- 雇用確保・創出
- 優秀な人材の流入
- 仕事の質の向上
- 全体の所得水準上昇

★ **ネガティブな未来**
人間+AI等の仕事量を下回る全仕事量の縮小

- 技術導入を躊躇
- マーケットの喪失
- GDPの減少
- 雇用喪失
- 優秀な人材の流出
- 仕事の質の低下
- 所得の二極化（貧困）

■ 提言

AI・ロボット活用による生産性向上と新たな付加価値創出により真のグローバル競争を勝ち抜き、仕事の質の向上と量の拡大を実現する必要がある

希望ある雇用の未来を勝ち取るために、今から日本の総力を結集した取り組みを開始すべきである

<経営者への提言>

経営の再設計を！

マインドセットの転換

- ✓ AI・ロボット社会到来に対する組織内の健全な危機意識の共有と理解
- ✓ 痛みを恐れず変化に向かう強い意志

グローバル競争時代を見据えた変革

- ✓ BPRの追求、人事制度改革、組織改革
- ✓ 自前主義からの脱却、産業の垣根を越えた協働を加速

<労働者への提言>

労働の意識改革を！

チャレンジ意識

- ✓ 副業やマルチジョブ等、自らキャリアを切り開く意識改革
- ✓ 自己を高める弛まめ努力

仕事に対する価値観の変革

- ✓ 労働中心の価値観からの脱却
- ✓ 働き方改革は労働者自らが実現

<国への提言>

行政対応の先行実施を！

社会プラットフォーム整備

- ✓ 法整備、規制緩和等の先行整備
- ✓ 国際動向の体系的な収集・発信

ノーレガシー政策の徹底

- ✓ 恒常的な最先端技術の導入・更新と過去の非効率な仕組みとの決別

セーフティネットの構築

- ✓ 雇用ミスマッチや所得低下への対応

<教育に対する提言>

ビジョンを共有した教育改革を！

キャリア形成を支援する職業教育の充実

- ✓ 企業・産業を超えた職業教育の枠組みを構築
- ✓ 期待するキャリアプランに連動した学習プランの提示

未来を創る教育制度の改革

- ✓ 創造性やコミュニケーション能力育成を中心とした教育制度改革
- ✓ 教育制度実現に向けた公的支出の拡大

特に経営者は、社会全体に対し「未来の経営ビジョン」を示し、実行するための強いリーダーシップを発揮することが求められる
 その活動こそが「次世代のための行動」実現に向けた責務を果たしていくことに繋がる